

令和元年度

公立高等学校入学者選抜
学力検査の分析結果

宮城県教育委員会

ま え が き

公立高等学校の入学者選抜学力検査問題については、入学者の選抜に際し極めて重要な資料となることから、中学校学習指導要領の趣旨に、より即する出題内容となっているかについて継続的な調査研究に取り組み、出題方法の工夫や改善に努めてきたところである。

本報告は、令和元年度宮城県公立高等学校入学者選抜における前期選抜（平成31年1月31日実施）及び後期選抜（平成31年3月6日実施）のそれぞれの結果について、以下の二点を目的として、分析及び考察を示したものである。

- 1 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- 2 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

分析に当たっては前期選抜の全日制課程受験者の中から200人、後期選抜の全日制課程受験者の中から400人を抽出し、それぞれの答案を標本として、教科ごと、小問ごとの正答及び誤答等を分析し考察した。また、小問ごとに、正答率に加え得点率も示した。さらには、抽出標本を中学校の学習成果を基に三つの階層に分類し、それぞれの得点率も示し、今後の学習指導の参考となるように努めた。

本報告が中学校、高等学校はもとより、多方面で活用されることを願うものである。

令和元年7月

宮城県教育委員会 教育長 伊 東 昭 代

目 次

前 期

I	受験状況	4
II	出題の基本方針	
III	学力検査の結果（全日制受験者）	
1	総点	
2	各教科の成績	
3	各教科の得点分布	
IV	各教科の分析	5
1	標本の抽出	
2	分析の方法	
3	各教科の分析結果の概況	
<	問題，正答と配点，正答率・無答率・得点率・その他 >	
	国 語	6
	数 学	12
	英 語	18
<	出題のねらいと内容・結果の考察 >	
	国 語	24
	数 学	25
	英 語	26

後 期

I	受験状況	28
II	出題の基本方針	
III	学力検査の結果（全日制受験者）	
1	総点	
2	各教科の成績	
3	各教科の得点分布	29
IV	各教科の分析	30
1	標本の抽出	
2	分析の方法	
3	各教科の分析結果の概況	
<	問題，正答と配点，正答率・無答率・得点率・その他 >	
	国 語	32
	社 会	38
	数 学	44
	理 科	50
	英 語	56
<	出題のねらいと内容・結果の考察 >	
	国 語	64
	社 会	65
	数 学	66
	理 科	67
	英 語	68

前 期

I 受験状況

表1に今年度前期（連携型を含む）及び前年度前期の学力検査の全教科受験者数を示す。

表1 学力検査受験者数

年度	全日制	定時制	計
令和元年	7,946	245	8,191
平成30年	8,180	213	8,393

II 出題の基本方針

中学校学習指導要領に示されている目標や内容を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、思考力、判断力、表現力及び知識・理解等を総合的にみることをねらいとした。

また、各教科とも履修学年や分野・領域、難易度のバランス、問題の分量について配慮し、受験生の多様な力を的確に捉えることができるように工夫した。

III 学力検査の結果（全日制受験者）

1 総点

全教科受験者の総点について、表2に度数分布表を、図1に相対度数分布図を示す。

表2 総点の度数分布表

得点区分	令和元年度		平成30年度
	人数	割合(%)	割合(%)
0～50	92	1.2	1.1
51～100	1,027	12.9	14.3
101～150	1,875	23.6	28.7
151～200	2,294	28.9	29.0
201～250	2,170	27.3	23.4
251～300	488	6.1	3.5
計	7,946	100.0	100.0

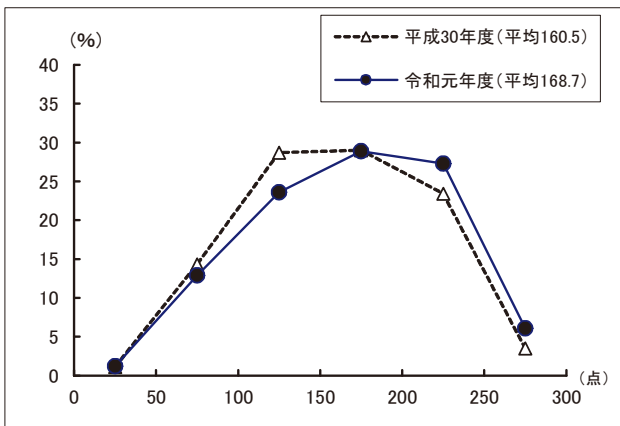


図1 総点の相対度数分布図

2 各教科の成績

表3に各教科の受験者と合格者の平均点と、前年度の受験者の平均点を示す。

表3 各教科の平均点

区分		国語	数学	英語	総点
受験者	平均	64.6 (62.4)	44.1 (48.4)	60.0 (49.7)	168.7 (160.5)
	最高	99	100	100	290
	最低	5	0	1	22
合格者		65.3	44.4	61.6	171.3

()内は前年度の平均点

3 各教科の得点分布

今年度及び前年度の国語、数学、英語の得点の相対度数分布図を、以下に示す。

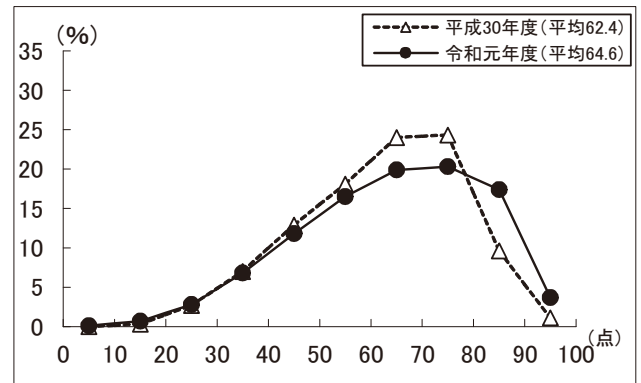


図2 国語

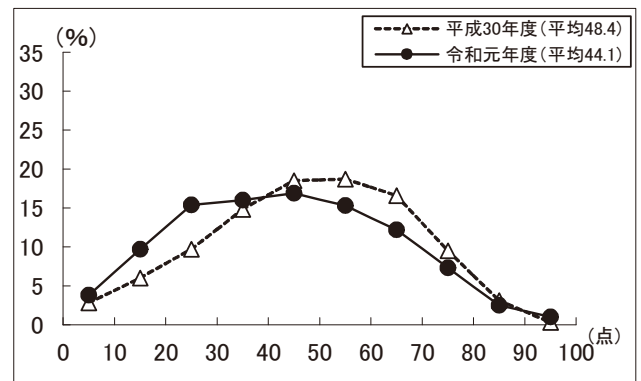


図3 数学

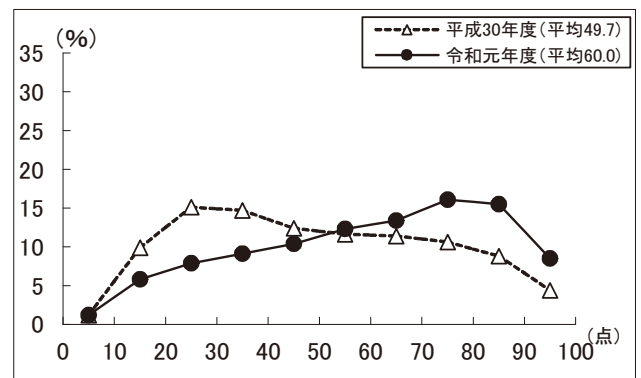


図4 英語

IV 各教科の分析

1 標本の抽出

分析等の調査は、抽出した標本によって行った。標本については、まず全日制の学校・学科の中から学力検査総点の受験者平均点を基にして25校・学科を抽出し、さらに調査書総点ごとのバランスに留意して合計200人を抽出し標本とした。

2 分析の方法

小問ごとに正答率（完全正解の割合）、無答率を算出し、得点率（配点に対する平均点の割合）も算出した。加えて、標本を調査書総点を基に三つの階層に分け、それぞれの階層別の得点率も算出した。さらに、誤答例・誤答傾向について、できるだけ詳細に取り上げ、分析を行った。

3 各教科の分析結果の概況

国語 平均点 64.6点（前年度比 +2.2）

展開や表現の仕方に注意して文章を読むこと、目的や意図に応じて適切に表現することに課題

大問配置の変更に伴う、無答率や正答率の変化は見られなかった。

漢字に関する事項、話すこと・聞くことに関する事項などは、国語の基礎的・基本的な事項における知識の定着が見られる。その一方で、接続詞の働きを問う問題の正答率が低く、日常の会話や文章の中で働きやつながりを捉えさせる指導が求められる。

また、内容を的確に捉え、文脈に即して読み取り、適切に表現する問題での得点率が低かった。記述問題での無答率は高くないにも関わらず、得点率が低いことから、説明に必要な要素を十分に整理し、表現できていないことが分かる。内容を的確に捉えながら読むことや、読み取ったことを整理して適切に表現することに課題がみられる。

古典では、古典特有のリズムを意識して音読させることによって対句に気付かせるなど、内容を深く味わうための指導の工夫が求められる。

数学 平均点 44.1点（前年度比 -4.3）

事象を式やグラフで表現し数学的に処理する力、既習事項を組み合わせて考える力に課題

基本的な数と式の計算、確率の問題については正答率が高く、学習の成果がうかがえる。一方、与えられた条件を適切に処理し、既習の知識を組み合わせて解決する問題は低い正答率となっており、事象を論理的に考察して数学的に処理する力に課題が残った。

「関数」領域では、事象を適切にグラフで表現し、そのグラフを活用する力に課題がみられた。二つのグラフの交点に着目しながら問題を解決し

ていく活動の充実が求められる。

「図形」領域では、仮定から筋道を立てて論証する力と、相似な三角形を見いだして線分の長さの比を考える力に課題がみられた。図形を多面的に考察し、適切に計量を行う力の育成が求められる。

英語 平均点 60.0点（前年度比 +10.3）

大切な情報を的確に読み取る力、自分の意見を論理的に表現する力に課題

コミュニケーションに必要な基礎的・基本的表現の定着は見られるが、会話の流れを適切に理解し応答する力が不十分である。語彙や文法については、疑問詞+to不定詞や関係代名詞の理解はある程度できているが、一方で基本的な語彙の定着について差が見られた。また、英文の内容理解については、話のあらすじを捉えることはできているが、複数の情報から大切な情報を的確に読み取ることに課題がみられる。英作文については、場面設定を適切に読み取り、自分の意見を論理的に表現する力に課題がある。

様々な言語活動を通して基本的な語彙や文法の定着を図るとともに、まとまりのある英文を読む活動では、キーワードを手がかりに大切な部分を探し出し、互いに関連付けながら書き手の意図を丁寧に読み取るような指導が求められる。また、英作文では、伝えたい内容を整理した上で、語彙や文構造、文と文とのつながりに注意しながら書く力の育成が求められる。

各教科の詳細については、24～26ページの**2**結果の考察に示す。

第一問 次の問いに答えなさい。

問一 次の文の――線部①～⑧のうち、漢字の部分はその読み方をひらがな書き、カタカナの部分は漢字に改めなさい。

- ・ 感性を①研ぎ澄ます。
・ 仲間と②織り合う。
・ ③寸暇を惜しんで創作に励む。
・ 切りが④鞆に包まれる。
・ 異彩を⑤ハナつ。
・ 友人から引越しの⑥タヨリが届く。
・ ⑦ツウカイな冒険小説を読む。
・ 月は地球の⑧「イセイ」である。

問二 次の行書で書かれた漢字のうち、楷書で書く場合と比べて、点画が省略されているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祝 イ 員 ウ 管 エ 典

問三 次の文の「爽やかに」と――線部が同じ品詞である文を、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

窓からは風が爽やかに吹き込んでくる。

- ア 野菜を細かく刻む。
ウ 山道をゆつくり歩く。
イ 小さな音が吹いている。
エ 子供たちの元気な音が響く。

問四 次の文の――線部を、適切な敬語表現に直しなさい。

職業体験先の店長さんは、私たち中学生に、挨拶が大切だと申しあげた。

問五 次の文の□に入る適切な漢字二文字を用いて、三字熟語が成り立つものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

また成年に達していないことや、その人のことを□成年という。

- ア 自然 イ 確認 ウ 日常 エ 遺慮

【発表】

〈Aさん〉 それでは、交流会の活動内容を提案します。交流会は、小学校の体育館で、午後一時から午後三時までの時間を予定で行います。交流会のテーマ「①」を受け、まずは「折り紙飛行機」次に「五色綱引き」の順で、小学生と中学生が一緒に楽しむことを提案します。

〈Bさん〉 まず、「折り紙飛行機」についてです。みなさんも、折り紙で飛行機を折った経験があるのではないのでしょうか。折り紙飛行機には、たくさんの折り方があり、本やインターネットで調べておくことができます。当日は、さまざまな大きさの折り紙を用意します。小学生四人、中学生四人の合計八人で一グループを作り、グループ内で折り方を教え合っ、一緒に飛ばそうという企画です。

〈Cさん〉 次に、「五色綱引き」についてです。「折り紙飛行機」のグループ内で「五色綱引き」のチーム一つを作ります。まず、五本の綱を並べます。対戦前の作戦タイムで、チームごとに作戦を立て、時間になったら、対戦する二チームはスタート位置に並びます。笛の合図で走って綱を取りに行き、③とします。各チームが全てのチームと対戦します。

〈Dさん〉 交流会のテーマに沿って、みんな楽しく過ごす時間になることを目指して、「折り紙飛行機」と「五色綱引き」を提案します。小学生一人一人が交流会を楽しむためには、私たちの心配りが大切です。中学生として、それぞれの役割を果たし、みんなを笑顔にしましょう。

問一 【発表】の①にあてはまる言葉を、【構成表】【発表メモ】【資料】のいずれかの中から八字そのまま抜き出して答えなさい。

問二 【発表】のAさんの発言に「折り紙飛行機」とありますが、次の文は聞き手の一人がこの言葉聞いたときに持った疑問です。この疑問を解消することができるBさんの発言として、最も適切なものを、【発表】中の――線部ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

折り紙飛行機で、どのように小学生と交流するのだろうか。

第二問 中学生のAさんのクラスでは、小学生と交流会を行うことになり、Aさんのグループ四人が活動内容の企画を担当しました。次は、Aさんのグループが提案するために用意した【構成表】、各担当者が作成したメモの一つである【発表メモ】、提示資料の一つである【資料】です。【発表】はこれらを用いて提案したときの場面です。あとの問いに答えなさい。

【構成表】

Table with 4 columns: 提示資料, 説明内容(時間)と担当, 発表メモ, 発表資料. It details the event schedule and roles for 'Origami Paper Airplane' and 'Five-Color Rope Pulling'.

【発表メモ】

五色綱引き チーム
・「折り紙飛行機」グループ2つで「五色綱引き」1チーム
進め方
・5本の綱を並べる
・対戦前に作戦タイム
・スタート位置に並び、笛の合図で綱の所へ走る
・自分たちの陣地へ綱を引寄せ、綱が多いた方が勝ち
・全てのチームと対戦

【資料】

みんなで作れよう
・折り紙飛行機
・五色綱引き
中学生としての役割を果たそう

問三 【発表メモ】を参考にして、【発表】の③に入る適切な表現を考えて、二十五字以内で答えなさい。

問四 【構成表】の提示資料の欄には、それぞれの発表で用いる提示資料を示します。【発表】から判断し、【資料】は【構成表】の提示資料の欄の「ア～エ」のどこに入るか、最も適切なもの一つを選び、記号で答えなさい。

問五 次の【発表】の後に行われた質疑応答の一部です。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

〈Aさん〉 交流会の時間が限られているので、「折り紙飛行機」と「五色綱引き」のどちらか一つだけで良いと思いますが、

〈Aさん〉 はい。確かに私たちが「五色綱引き」一つだけとしていた方が、二つにしました。その理由は、まず、少人数で交流し、きっかけを作ることで、より仲良くなれると考えたからです。

〈Yさん〉 運動が得意ではない小学生もいると思いますが、そういう子どもたちが「五色綱引き」を楽しむためには何か考えがありますか、もしくは説明してください。

〈Cさん〉 はい。その点については、中学生の働きが重要になります。「五色綱引き」は作戦が大切なので、チーム内の小学生が活躍できるように、中学生がリードしながら話し合っって作戦を立て、練習したり動したりしながら進めていくことで、みんなが楽しむことができるようになります。

(一) Aさんの回答は、Yさんの質問に答えたものです。□に入る適切な表現を考えて、十五字以内で答えなさい。

(二) Yさんの質問の意図として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 発表内容の中で気づいた疑問点について、相手の具体的な考えを聞き出すこととしている。
イ 発表内容の中で自分の考えと相違する点について、相手の考えに賛成する理由を探そうとしている。
ウ 質疑応答での説明の要点について、自分の捉え方が間違っていないか確認しようとしている。
エ 発表全体での説明と質疑応答での説明の矛盾点について、説明してもらおうとしている。

第三問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ぼく」は美術学校を卒業後、会社に勤めながら、いつかは自分だけの画を描きたいと願っていた。あるとき、旅先で、石に鳥の画を描く男に出会った。夕方になり、雨が降りだしたので、「ぼく」は自分のキャンピングカーに男を招き入れた。

誰かが舞台照明のスイッチを、気まぐれに入れては消しているように、時々青白い閃光が一瞬辺りを照射した。闇の天空から何百何千とも知れぬ白銀の矢が、果てしもなく射込まれていた。雨は腰を据え降るつもりようだった。

「睡までやすんでいって下さい。後部がベッドになっています」「こんな迷惑をかけるが、そうさせてもらおう。今日は宿を探す間がなかった」

「いつもは旅館に泊るのですか?」「夜宿をみつけて利用してる。帳をとると野宿がもつくなつた」「ぼくは悪い切って言ってみた」

「その、鳥を描いた石を、見せてもらえないでしょうか?」「人に見せるようなもんじゃあない」「何だかとても気を惹かれる。それに、画なら何でも見ておきたい……」

「見なければ見るがいい」「男は何りなく、あっさり承知した。」「ただ、何の足にもならないよ。何の役にも立たないもんだから……」

男は、じきお好意に甘えて寝かせてもらおう、このシートで結構だ、とつぶやきながら、四人掛けの座席に高高い体を伸ばした。」「ぼくは少々あわてながら言った。」「あの、勝手に鞆から出して見ていいですか?」

「どうも。底には下着類が詰まってるが、洗って乾いたものばかりだ。石だけとり出せばいい」

男は眠そうな声で言い、口もとに笑みを浮かべて言った。」「だが、そんな多量なものを見ると、鳥の夢であらうよ」

男が怪しいまぶしをこいて眠ってしまうまで、微妙しかかからなかったように思ふ。」「ぼくは、小さいが強力なスポットライトの光を、食卓兼用の木の机の上だけに当てて、車内灯を消した。許しを得た上とはいえ、他人の荷物を開ける行為に少し後悔のたまたまを感じながら、ぼくは男の鞆のフリップの紐を解いた。タオルを平切したように一つずつくるんだ参大の石が、キョリ詰まっていた。ぼくは慎重に一つを取りあげて机に載せ、ポロ布を開いた。

あゝ、と小さな声をあげたかもしれない。あるいは、息を呑んでしまった

*をつけた語句のへ注
高高い ———— ここでは、体格が大きいこと。
フリップ ———— 鞆のふたの部分。
旗幟鮮明 ———— 立場や主張がはっきりしていること。

問一 本文中に「闇の天空から何百何千とも知れぬ白銀の矢が、果てしもなく射込まれていた」とありますが、次の文は、この表現について説明したものです。ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

「白銀の矢が」「射込まれていた」という□□を用いて、激しい電的比喩を表現している。
ア 直喩 イ 隠喩 ウ 反復 エ 倒置

問二 本文中に「ぼくは少々あわてながら言った」とありますが、次の文は、このことについて説明したものです。□□に入る適切な表現を考えて、十五字以内で答えなさい。

男が眠ってしまいそうになり、このままでは□□と思つたので、自分が男の鞆から石を取り出すことの許可を、急いで得ようとした。

問三 本文中に「あゝ、と小さな声をあげたかもしれない。あるいは、息を呑んでしまったのかもしれない。」とありますが、次の対話はこのことについて話し合ったものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

<Xさん> 「あゝ、と小さな声をあげた」と「息を呑んでしまった」という二つの表現が並んでいるけれど、どついついことかな。
<Yさん> これらの表現はどちらも、画を見た「ぼく」が□□の様子を表しているんだと思うよ。
<Xさん> そうか、そう考えると「かもしれない」と、まるで自分がどうだ、たか分からないような表現は「ぼく」が我を忘れて画に□□ということをはげしているんだね。

のかもしれない。現れた石の明の美しさに、ぼくは唾然として見とれてしまった。

コガモが左を向いて首をすくめ、体の半分をこちらに見せて水に浸いた姿だった。水面は揺れてはいたが、石にやや平らな面があり、そこを底にして置いて見ると、傷だらけの鰐の肌はたちまち川の流れになった。ふくらはと小造りな灰褐色の全身は、目を浴びて色の微妙な濃淡を度々上からまて

して置いた。一見地味な色あいの小さな鰐は、匠のクリーム・イエローの三角形で、コガモであることを旗幟鮮明に示していた。鮮やかな黄の腹どりのある濃緑の眼帯の中で、コガモはキョロと瞼目を使ってぼくを見つめていた。

ぼくは、とびつこうにして鞆から次の石をとり出し、ポロ布を開いて見た。

一番のオナガガモが翼を取り、水面を蹴って今まさに飛び上がろうとしていた。遠目には黒と白だけの鰐に見えるオスは、バツと振った次列歯切歯の葉色の頭、白の三色旗をこぼれ見よがしに誇示していた。純白が胸を白く塗り、羽の根元の辺りまで極ね上がった。その白い首をすくくと伸ばして羽を伸ばしていた。

目立たない褐色の濃淡だけのメスは、オスの鰐になつて連れ添っていた。石の自然の潮れ目が、オスとメスを分けている。たつた今水から出たばかりのオスの頭色の肌は、水掻きから水滴を滴らせればかりに濡れて光っていた。

ぼくは石に顔を寄せ、目を凝らしていた。見れば我を忘れ、ふと気がつく。ぼくは石をとり上げるといふことを繰返していた。

マガモがいた。パンがいた。ホオシロガモがいた。水鳥ばかりでなく、キジもコジュケイもいた。うすくまつたヤマシキは、土と腐葉の精のようで、もし枯葉の中に落ちていたら、一度と見つかからないだろうと思われた。鳥たちは目を生き生きと見送り、羽手を軽やかに動かして飛び、泳ぎ、歩いていた。

ぼくは鳥たちに魅了された。画が上手というのではなかった。むしろ雑拙といえた。そして正確でもなかった。図縷的な見方をすれば、形や色に写実が徹底しないところがあった。だがそんなことは問題ではなかった。これを描いた者の、鳥たちへの深くあたたかな愛情があった。

今、ぼくの傍で遺書を立立て無難にしている男が、ある時は兼風目に目を細め、ある時は汗や涙のじわじわ目見詰めてきた鳥たちの姿なのだ。男の心に映した姿なのだ。鳥は生きて、自然だった。石ころの丸みのせいか、鳥たちは皆少しずんぐりして、ふくよかだった。石はほつこりとした体温があった。

スポットライトの陽光の中、鰐の腹の水面や草原に、様々な鳥が嬉々として集い、ぼくを夢幻の世界に誘い込んだ。(種見「良」「ダック・コール」による)

問四 本文中に「傷だらけの鰐の肌はたちまち川の流れになった」とありますが、このときの「形」の比喩を説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 驚嘆して言葉を失った イ 歓喜して有頂天になった
ウ 落胆して遠方に暮れた エ 満足して気が緩んだ

問五 本文中に「これを描いた者の、鳥たちへの深くあたたかな愛情があった」とありますが、「ぼく」がこのように感じたのはなぜですか。五十五字以内で説明しなさい。

(一) □□にあてはまる表現として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 驚嘆して言葉を失った イ 歓喜して有頂天になった
ウ 落胆して遠方に暮れた エ 満足して気が緩んだ

(二) □□にあてはまる言葉を、本文中から五字でそのまま抜き出して答えなさい。

問六 本文中に「川の流れが動き出して見えるほど、力強く大きな動きをしている鳥の姿とその背景に細かく描かれた景色に圧倒されている。」とありますが、この表現の効果について説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 川の流れて動き出して見えるほど、力強く大きな動きをしている鳥の姿とその背景に細かく描かれた景色に圧倒されている。
イ 鳥が自然に見える石の置き方を机の上に探りながら、自分が川の流れや水面に浮かぶ鳥を写実的に描きこんでいる。
ウ 鳥の姿が本物に見えるように机の面を川の流れに見立て、実際に自然の中に見えるような臨場感を得ようとしている。
エ 実際の自然の中で川の流れを見ているような感覚になるほど、描かれた鳥の生命感あふれる姿に引き付けられている。

問七 本文中に「一人で石を見つめる「ぼく」の姿が映像を見るように伝わり、明るく照らされた風景がいつか消えていく幻滅であることを印象付ける。」とありますが、この表現の効果について説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一人で石を見つめる「ぼく」の姿が映像を見るように伝わり、明るく照らされた風景がいつか消えていく幻滅であることを印象付ける。
イ 暗闇の中にもともとも明かか強調され、楽しそうなこの鳥たちのように現実の世界を明るく生きよとさせる「ぼく」の決意を読者に伝える。
ウ 光に照らし出された机の上の幻想的な風景として伝わり、石を見ている「ぼく」が、描かれた鳥たちの世界に夢中になっていく印象を強める。
エ 雨の夜の場面であることと強調され、鳥たちのように飛び立つことができない「ぼく」が現実の世界にいることを、読者に気づかせる。

第四問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

狩猟・採集社会では、狩猟と採集のどちらにより大きなウエイトがかけられた。むしろ、それはその社会があった土地やその環境によりさまざまである。だが、ごく大ざっぱにいうと、高緯度地域の社会ほど動物質の狩猟にかかるといえる。J・ヘーランは『Crops & Man』で書いている。高緯度地帯や中緯度の乾燥地帯では、糧食が乏しく、それがために野生動物の狩猟に頼らざるを得なかったというわけである。これに対して、低緯度地帯では気候は湿潤で、糧食が豊富なので、植物質の資源に頼ることができる。むしろ植物質の資源が豊富であれば、それにつれて動物質の資源も豊かになる。低緯度地帯では、食料資源の選択の幅が大きかったということになる。

狩猟・採集という異質な作業の双方を、個人のペースでこなすのは容易なことではない。どちらにもスキルが必要で、またスキルの獲得には長い時間を要した。当然、個人には得手不得手があるし、また性差もあって、集団のなかには分業が発達することになる。年齢によっても、または男女の間で、人類は発達してから数百万年間の大半の時間を、この狩猟と採集によって生きてきた。一万年ほど前に農耕や遊牧が徐々に拡大するまで、人びとはそうして暮らしてきた。だが、今では狩猟や採集のみで暮らしをたてる狩猟・採集民といわれる人びとの分布はごく限られている。

狩猟・採集民は絶滅危惧の状態にあるかにみえるが、狩猟・採集民の数がここ最近になって激減したわけではない。農耕民やそれから派生した現代の都市住民の数が急激に増え、狩猟・採集民の活動範囲を圧迫しているだけなのだ。現代という時代のなかでは、狩猟・採集民は生活を変えざるを得ない。彼らは、一万年前の狩猟・採集民とは異なり、農耕民とのかかわりながら生きていかなざるを得ない。彼らのなかにはケータク重点をもち、また狩猟用のイスにはGPSを取りつけたりもして、一面ではごく現代的な暮らしをしていけるものもあるという。

ついに問まで——近代に入るまで——人びとにとって、生きることは日々の食料を自らの手で調達することであった。自分の食料は自分で生み出さなければならなかった。衣や住についても同じである。衣については、縫製はもちろん、場合によっては糸を紡ぐことまで、自分や自分が属する集団の責任であった。生きることは、自己の責任において行うことだったのだ。しかしだからこそ、人は協働し、家庭や社会を作って集団で自分たちを守ることになった。生物種としてのヒトは、それほど早く定れるわけでもなく、また腕力が強いわけでもない。肉食動物に比べればヒトなどどこも弱者である。その弱者たるヒトが地球上に広まりながら今まで生きながらえることができた背景には、火や道具を発明したことのほか、そうした社会の構造が

深く関係している。農耕を始め、生産の一部をそれに頼ったことで、小さな集団で動物の群れを追ったり、あるいは植物性の資源を求めたりして徘徊する狩猟民や採集民のような暮らしはできなくなっていった。かといって資源のすべてを農耕だけに頼ることもできなかった。そうするには、農耕はあまりに危険な生業だった。おそろしく、そのリスクはしばしば失敗し、狩猟と採集で生きる社会に逆戻りしたことになる。そしてその暮らしは繁栄を成し遂げなかった。ヘーランは、今も残る狩猟・採集民の生活ぶりを以下のように書いている。「(アフリカのカラハリ砂漠でもオーストラリアでも)女性と子供たちは植物の採集や小動物の捕獲に、そして男性は狩猟にという分業があった。ただし狩猟はどちらかかというレジヤールのようなものだった。(中略)男も女も、一日働けば三日目は仕事を休んだし、働く日でも一日当たり三、四時間ほどしか働かなかった」

そしてさらに休息の時間はといえば、眠りこけるものもいたし、またさまざまな精神活動に時間を費やしたのもいたであろうというのである。この時点で、わたしたちは狩猟・採集が選んだ生業で、農耕が進んだ生業であると

いうこれまでの「パラダイム」から脱却しなければならない。もちろん彼らの暮らしがバラ色だったというのではない。

農耕は、その成り立ちからいけば畑占の生業であった。土地を占領し、水を占有する。土地を囲み込み、他の生業、つまり狩猟や採集の行為やその集団の人びとを排除する。生態学的にみても、農耕地が広がるいわば里の景観が登場するようになると、野生動物の活動範囲はどうしても狭められる。野生動物は人間を嫌うことが多い。人間活動が作り上げた、たとえば「里」のようなシステムからは離れようとする。

これに対して、狩猟・採集の暮らしでは、じつに多様な資源が利用に供された。多様性の程度は、地域によってむしろ違っていたであろうが、多くの狩猟・採集社会が多様な動物植物の資源を利用していたことは確かである。これが、ヒトという哺乳類と他の哺乳動物の大きな違いのひとつであると思う。先のヘーランは同書で、採集民が採集した植物の多様性について、「今まで人類が栽培化した植物全部の数より多い数の野生植物が採集されていた」としている。農耕の開始は、より少数の、つまりある特定の種だけを利用するシステムへの移行であったともいえる。

(佐藤 洋一郎「食の人類史」による)

Table with 2 columns: Term and Definition. Includes ウェイト (重点), J・ヘーラン (アメリカの植物学者), Crops & Man (J・ヘーランの著書名), 糧食 (食の場所), 個人のペース (一人で), スキル (訓練), 生業 (生活), パラダイム (時代).

問一 本文中に「だが」とありますが、この言葉のこのでの働きを説明したものと、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ここまでに述べられたことに付け加えられる事柄が続くことを示す。
イ ここまでに述べられたことから導く語句が続くことを示す。
ウ ここまでに述べられたことは一致しない内容が続くことを示す。
エ ここまでに述べられたことから導かれる結果が続くことを示す。

問二 本文中に「低緯度地帯では、食料資源の選択の幅が大きかった」とありますが、次の文章は、このことについて説明したものです。A B にはまる言葉を十五字で、B にはまる言葉を五字で、それぞれ本文中からそのまま抜き出して答えなさい。

低緯度地帯では、A うえに、動物質の資源も豊かであるから、狩猟と採集の両方が可能となる。この二つは B であることから、人びとは集団の中で分業を発達させて食料資源を得てきた。

問三 本文中に「今では狩猟や採集のみで暮らしをたてる狩猟・採集民といわれる人びとの分布はごく限られている。」とありますが、このことを説明したものと、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現代では農耕民や都市住民の数が増え、狩猟・採集民が活動を行うことができる範囲が限定されているということ。
イ 現代では農耕や遊牧で暮らしをたてる人の数が増え、狩猟や採集のみで生活する人の数が近年になって激減しているということ。
ウ 現代では人びとは農耕や遊牧に費やす時間が増え、狩猟や採集の活動を行う機会が減少しているということ。
エ 現代では農耕民や都市住民との共同作業が増え、狩猟・採集民が持つスキルを発揮する場が制限されているということ。

問四 本文中に「生きることは、自己の責任において行うことだったのだ。」とありますが、「行うこと」とは、自己の責任において行うことですか。三十文字以内で説明しなさい。

問五 本文中に「これまでの『パラダイム』から脱却しなければならない」とありますが、ここでの「これまでの『パラダイム』から脱却」とはどのようなことですか。五十文字以内で説明しなさい。

問六 筆者が考えを述べる上、本文中で工夫していることについて説明したものと、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 分類された事柄についてそれぞれを具体的に説明し、共通点を導き出して筆者の考えとしている。
イ 提示されている事柄について専門家の言葉を引用し、筆者の考えの根拠としている。
ウ 提起された問題について対立する二つの意見を挙げ、筆者の立場を明確にしてその根拠とらえを述べている。
エ 専門用語を平易な表現に言い換え、筆者が考えの根拠としている事柄について分かりやすく伝えている。

第五問 次の【漢文】と、その【書き下し文】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【漢文】

反^①己者、触^②事皆
 成^③。乘^④石、尤^⑤人者、
 動^⑥念^⑦。即^⑧是^⑨、戈^⑩矛^⑪。
 一^⑫以^⑬、闢^⑭衆善之^⑮路^⑯。
 一^⑰以^⑱、澹^⑲諸惡之^⑳源^㉑。
 相^㉒去^㉓膏^㉔壤^㉕矣。

【書き下し文】

己を反^①る者は、事に触^②れて皆
 成^③る。人を尤^④むる者は、
 念を動^⑤かせば即^⑥ち是^⑦れ戈^⑧矛^⑨。
 一^⑩は以^⑪て衆善の路^⑫を闢^⑬き、
 一^⑭は以^⑮て諸惡の源^⑯を澹^⑰くす。
 相^⑱去^⑲ること膏^⑳壤^㉑なり。

(「葦相譚」による)

*をつけた語句のハ注
 戈矛——武器。ここでは、自分を傷つけるものだとす。
 闢——開く。
 澹——深くする。
 膏壤——天と地。

問一 【漢文】中の①「反」と同じ意味で「反」が用いられている熟語を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 反則
- イ 反省
- ウ 背反
- エ 離反

問二 【漢文】中に「乘石」とありますが、次の文章は、この言葉について説明したものです。あとの(一)～(二)の問いに答えなさい。

「乘石」は、さまざまな薬や治療法という意味であるが、ここでは
 A 物のたとえとして用いられている。またこの「乘石」
 によって、人の行いは多くの B へとつながっていく。

(一) A にあてはまる言葉として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 身体を強くする
- イ 疲れを癒やす
- ウ 心を養う
- エ 表面を飾る

(二) B にあてはまる言葉を、【漢文】中から漢字一字で抜き出して答えなさい。

問三 【書き下し文】中に「相去ること膏壤なり。」とありますが、次の文章は、このことについて説明したものです。に入る適切な表現を考えて、十五字以内で答えなさい。

「己を反る者」と「人を尤むる者」とでは、両者の
 という点。

問題番号		正	答	配点	
第一問	問一	① と(ぎ)	② きそ(い)	16	
		③ すんか	④ せいじゃく		
		⑤ 放(つ)	⑥ 便(り)		
		⑦ 痛快	⑧ 衛星		
第二問	問二	ア		2	
	問三	エ		2	
	問四	(例) おっしやった		2	
	問五	イ		2	
第三問	問一	みんなで楽しもう		2	
	問二	エ		2	
	問三	(例) 自分たちの陣地に引き込んだ綱の数が多いチームを勝ち (25字)		4	
	問四	エ		3	
	問五	(一)	(例) 二つにしたのはなぜですか (12字)		4
(二)		ア		3	
第四問	問一	イ		3	
	問二	(例) 画を見ることができなくなる (13字)		4	
	問三	(一)	ア		3
		(二)	魅了された		3
	問四	エ		3	
	問五	(例) 人に見せるためではなく、自然の中で見詰め心に映した鳥の姿が、色彩豊かに生き生きと描かれていると思ったから。 (53字)		5	
問六	ウ		3		
第五問	問一	ウ		3	
	問二	A	植物質の資源に頼ることができる		3
		B	異質な作業		3
	問三	ア		3	
	問四	(例) 衣食住といった生きるために必要なものを自ら調達すること。 (28字)		4	
	問五	(例) 狩猟・採集と農耕という二つの生業を、遅れた進んだという捉え方で見ることから抜け出すということ。 (47字)		5	
問六	イ		3		
第六問	問一	イ		2	
	問二	(一)	ウ		2
		(二)	善		2
	問三	(例) 行動の結果に大きな差が出る (13字)		4	

問題	正答率 ←	← 無答率	得点率	調査書総点別得点率 (a:135~121点 b:120~96点 c:95~27点)
第一問	①	95.0%	0.0%	95.0%
	②	93.5%	0.0%	93.5%
	③	55.0%	6.0%	55.0%
	④	89.0%	1.0%	89.0%
	⑤	64.0%	16.5%	64.0%
	⑥	63.0%	12.0%	63.0%
	⑦	59.5%	13.5%	59.5%
	⑧	70.5%	3.5%	70.5%
問二	81.5%	0.5%	81.5%	
問三	59.0%	0.0%	59.0%	
問四	75.0%	0.0%	77.5%	
問五	62.0%	0.0%	62.0%	
第二問	問一	96.0%	0.5%	96.3%
	問二	93.5%	0.0%	93.5%
	問三	67.5%	0.0%	87.3%
	問四	46.0%	0.0%	46.0%
	問五 (一)	63.5%	3.5%	73.4%
	問五 (二)	89.5%	0.0%	89.5%
第三問	問一	73.0%	0.0%	73.0%
	問二	45.0%	3.0%	64.9%
	問三 (一)	86.0%	0.0%	86.0%
	問三 (二)	68.5%	7.5%	71.2%
	問四	76.5%	0.0%	76.5%
	問五	6.5%	8.5%	32.3%
	問六	89.5%	0.0%	89.5%
第四問	問一	42.5%	0.0%	42.5%
	問二 A	77.5%	3.5%	78.8%
	問二 B	50.5%	10.0%	51.8%
	問三	78.0%	0.5%	78.0%
	問四	20.0%	8.5%	47.4%
	問五	7.0%	21.5%	18.4%
問六	60.0%	1.5%	60.0%	
第五問	問一	78.0%	0.5%	78.0%
	問二 (一)	58.0%	0.5%	58.0%
	問二 (二)	30.0%	0.5%	30.0%
問三	17.5%	13.0%	35.8%	
計			64.7%	

正答率:完全正解の割合 得点率:配点に対する平均点の割合

第一問 次の1～9の問いに答えなさい。

1 $4+7 \times (-2)$ を計算しなさい。

2 $\frac{11}{6} + \left(-\frac{2}{3}\right)$ を計算しなさい。

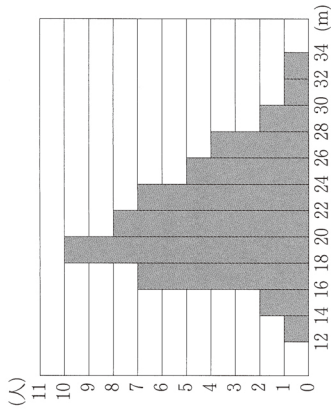
3 $a = \frac{2}{3}, b = -1$ のとき, $2(4a-3b)-5a$ の値を求めなさい。

4 $(\sqrt{7}+2)(2\sqrt{7}-3)$ を計算しなさい。

5 2次方程式 $x^2+5x+3=0$ を解きなさい。

6 分速100mでx分走り, そのあと分速70mでy分歩いたところ, 移動距離の合計はamになりなさい。yをa, xを使った式で表しなさい。

7 ある中学校で3年生男子48人のハンドボール投げの記録をとりました。右の図は, 今回の記録を, 階級の幅を2mとして整理し, ヒストグラムに表したものです。

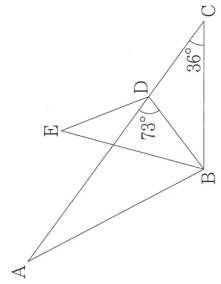


今回の記録の平均値は22.1mでした。今回の記録の平均値, 最頻値, 中央値の大きさの関係を, 不等号を用いて表したものと, 正しいものを, 次のア～カから1つ選び, 記号で答えなさい。

- ア (平均値) < (最頻値) < (中央値)
- イ (平均値) < (中央値) < (最頻値)
- ウ (最頻値) < (平均値) < (中央値)
- エ (最頻値) < (中央値) < (平均値)
- オ (中央値) < (平均値) < (最頻値)
- カ (中央値) < (最頻値) < (平均値)

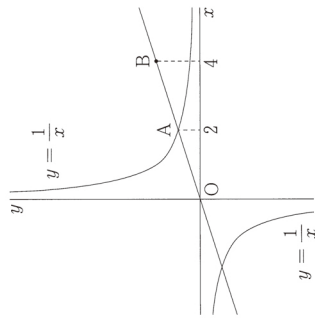
8 関数 $y = \frac{1}{2}x^2$ について, x の変域が $a \leq x \leq 6$ とすると, y の変域が $10 \leq y \leq 18$ になりました。aの値を求めなさい。

9 下の図のような, $\angle ABC$ が鈍角で, $\angle ACB = 36^\circ$ の $\triangle ABC$ があり, 辺AC上に $\angle ADB = 73^\circ$ となるように点Dをとります。また, 点Cを, 直線BDを対称の軸として対称移動させた点をEとします。点Eと点B, 点Eと点Dをそれぞれ結ぶとき, $\angle BAC$ と $\angle ABE$ の大きさの和を求めなさい。



第二問 次の1~4の問いに答えなさい。

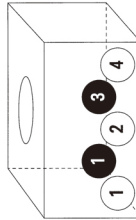
1 下の図のように、 $y = \frac{1}{x}$ のグラフ上に、 x 座標が2である点Aをとります。また、原点Oと点Aを通る直線上に x 座標が4である点Bをとります。



(1) 点Bの y 座標を求めなさい。

(2) $y = \frac{a}{x}$ のグラフが点Bを通るとき、 a の値を求めなさい。

2 下の図のように、箱の中に1, 2, 4の数字が1つずつ書かれた3個の白球と、1, 3の数字が1つずつ書かれた2個の黒球を入れ、箱の中の球をよくかき混ぜておきます。



(1) 箱の中から球を1個取り出すとき、取り出した球に書かれた数が奇数である確率を求めなさい。

(2) 箱の中から球を1個ずつ2回続けて取り出し、に示した規則にしたがって得点を決めます。

- 取り出した2個の球の色が同じ場合は、それらに書かれた数の積を得点とする。
- 取り出した2個の球の色が異なる場合は、それらに書かれた数の和を得点とする。

箱の中から球を1個ずつ2回続けて取り出すとき、得点が5点以上になる確率を求めなさい。ただし、取り出した球は、箱にもどさないものとします。

3 ある中学校の卓球部には、1年生の部員が12人、2年生の部員が9人います。この部で、千羽鶴を作るために、1, 2年生の部員全員が、折り鶴を2日間折りました。

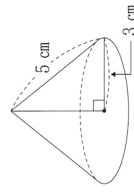
次の(1), (2)の問いに答えなさい。

(1) 1日目は、1人あたりの折る折り鶴の数を、1年生の部員が x 羽、2年生の部員が y 羽にしたところ、折った折り鶴は合わせて660羽になりました。1, 2年生の部員全員が1日目に折った折り鶴の数について、次のにあてはまる、 x と y を使った式を答えなさい。

= 660

(2) 2日目は、1人あたりの折る折り鶴の数を、1年生の部員は、1日目にそれぞれが折った折り鶴の数の半分にし、2年生の部員は、1日目にそれぞれが折った折り鶴の数より8羽少なくしたところ、1, 2年生の部員全員がこの2日間で折った折り鶴は、合わせて1080羽になりました。1年生の部員全員が、2日目に折った折り鶴は合わせて何羽ですか。

4 下の図のように、半径が3cmの円を底面とし、母線の長さが5cmとなる円錐があります。また、この円錐の展開図で、側面になるおうぎ形をPとします。



(1) おうぎ形Pの中心角を求めなさい。

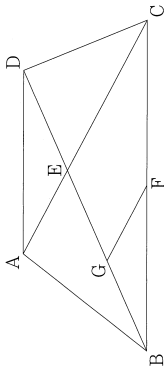
(2) 半径が、おうぎ形Pの半径と等しく、中心角が、 360° からおうぎ形Pの中心角をひいた値と等しくなるおうぎ形をQとします。円錐の展開図で、側面になるおうぎ形が、おうぎ形Qとなる円錐をRとすると、円錐Rの体積を求めなさい。

第三問 図IのようなAD//BCの台形ABCDがあります。対角線ACと対角線BDとの交点をEとします。また、辺BCの中点をF、線分BEの中点をGとし、点Fと点Gを結びます。

次の1, 2の問いに答えなさい。

1 $\triangle ADE \sim \triangle FBG$ であることを証明しなさい。

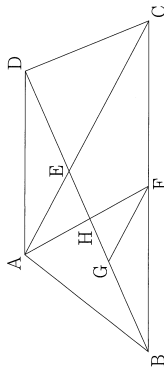
図I



2 図IIは、図Iにおいて、点Aと点Fを結び、線分AFと対角線BDとの交点をHとしたものです。辺ADと辺BCの長さの比が5:8のとき、次の(1), (2)の問いに答えなさい。

(1) 線分EHと線分HGの長さの比を求めなさい。

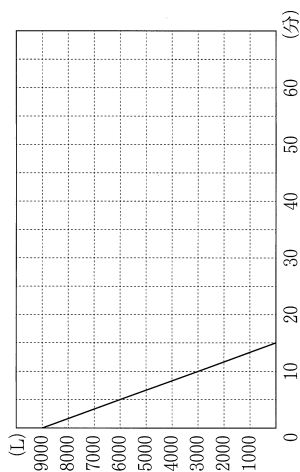
図II



(2) 点Cと点Hを結びます。△ADEの面積が 25 cm^2 のとき、四角形CFGHの面積を求めなさい。

第四問 ある旅館には浴槽Aと浴槽Bの2つの浴槽があり、浴槽内のお湯を新しくするために同時にお湯を排水し始めました。浴槽Aには9000Lのお湯が入っており、浴槽内のお湯をすべて排水し終えるのに、15分かかりました。下の図は、浴槽Aのお湯を排水し始めてから排水し終えるまでの、時間と浴槽A内のお湯の量との関係を表したグラフです。

次の1, 2の問いに答えなさい。ただし、どちらの浴槽も、お湯は一定の割合で排水されるものとします。



1 浴槽A内のお湯の量が1500Lになったのは、お湯を排水し始めてから何分何秒後ですか。

2 浴槽Bには6000Lのお湯が入っており、浴槽内のお湯をすべて排水し終えるのに、10分かかりました。浴槽B内のお湯をすべて排水し終えてから25分後に、浴槽Bに、はじめは毎分500Lの一定の割合でお湯を入れ、ある時点から毎分100Lの一定の割合でお湯を入れることに変えました。その結果、お湯を排水し始めてから60分後に、浴槽B内のお湯の量は6000Lになりました。次の(1), (2)の問いに答えなさい。

(1) 浴槽Bにお湯を入れ始めてから10分後の、浴槽B内のお湯の量は何Lですか。

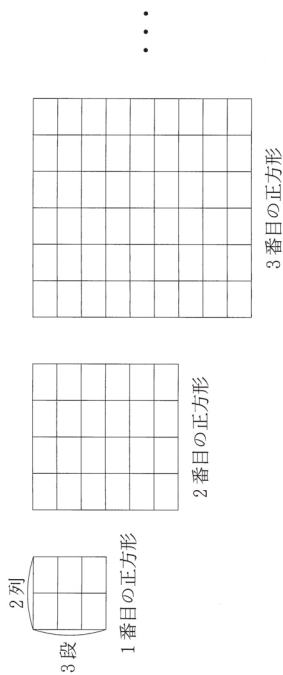
(2) 浴槽Aも浴槽A内のお湯をすべて排水し終えてから25分後に、浴槽Aに、はじめは毎分500Lの一定の割合でお湯を入れられました。浴槽Bのお湯を入れる割合を変えてしばらくしてから、浴槽Aも毎分100Lの一定の割合でお湯を入れることに変えたところ、お湯を排水し始めてから60分後に浴槽A内のお湯の量は9000Lになりました。

浴槽Aのお湯を入れる割合を変えたのは、浴槽Bのお湯を入れる割合を変えてから何分何秒後ですか。

第五問 2 辺の長さが 2 cm, 3 cm の長方形のタイルを, 3 cm の辺を横とするようにすきまなくしきつめて, いろいろな大きさの正方形を作ります。作ることができる正方形の中で, 1 辺の長さが短いものから順に, 1 番目の正方形, 2 番目の正方形, 3 番目の正方形, ... とします。

例えば, 1 番目の正方形は, 長方形のタイルを縦方向に 3 段, 横方向に 2 列しきつめたものになります。

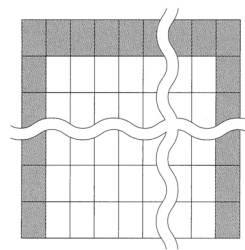
あとの 1 ~ 3 の問いに答えなさい。



1 4 番目の正方形にしきつめてある長方形のタイルは, 全部で何枚ですか。

2 n 番目の正方形と, $(n+1)$ 番目の正方形との, しきつめてある長方形のタイルの枚数の差が 450 枚となるとき, n の値を求めなさい。

3 長方形のタイルをすきまなくしきつめて作った, ある正方形の, 最上段と最下段および最も右の列にあるすべての長方形のタイルに色を塗りました。色を塗った長方形のタイルの枚数が 600 枚となるときの, 正方形の 1 辺の長さは何 cm ですか。



問題番号	正 答	配 点		
第一問	1	-10	3	
	2	$\frac{7}{6}$	3	
	3	8	3	
	4	$8 + \sqrt{7}$	4	
	5	$x = \frac{-5 \pm \sqrt{13}}{2}$	4	
	6	$[y =] \frac{a - 100x}{70}$	4	
	7	工	4	
	8	$2\sqrt{5}$	4	
	9	70	[度] 4	
第二問	1	(1)	1	3
		(2)	4	4
	2	(1)	$\frac{3}{5}$	3
		(2)	$\frac{2}{5}$	4
	3	(1)	$12x + 9y$	3
		(2)	168	[羽] 4
	4	(1)	216	[度] 4
		(2)	$\frac{4\sqrt{21}}{3}\pi$	[cm ³] 4
第三問	1	(例) $\triangle ADE$ と $\triangle FBG$ において $AD \parallel BC$ より平行線の錯角は等しいから $\angle ADE = \angle FBG \dots ①$ $\triangle BCE$ において、点F、点Gはそれぞれ辺BC、辺BEの中点であるから、 中点連結定理より $FG \parallel CE$ 平行線の同位角は等しいから $\angle BGF = \angle BEC \dots ②$ 対頂角は等しいから $\angle BEC = \angle DEA \dots ③$ ②、③より $\angle DEA = \angle BGF \dots ④$ ①、④より、2組の角がそれぞれ等しいから $\triangle ADE \sim \triangle FBG$	6	
	2	(1)	$[EH : HG =] 5 : 4$	4
		(2)	$\frac{272}{9}$	[cm ²] 5
第四問	1	12 [分] 30 [秒後]	3	
	2	(1)	4500 [L]	4
		(2)	13 [分] 45 [秒後]	5
第五問	1	96 [枚]	3	
	2	37	4	
	3	516 [cm]	4	